

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370104905		
法人名	社会福祉法人真光会		
事業所名	グループホーム出水		
所在地	熊本市国府2丁目6-91		
自己評価作成日	平成21年11月30日	評価結果市町村受理日	平成22年 2月 9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 PRENET21福祉事業部		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成21年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模な居住空間で家庭的な雰囲気を大切にして、安定した生活の継続を支援します。入居者一人ひとりの個性と生活リズムを尊重した対応に努めます。家族や地域社会との良好な関係の構築、継続を大切にします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今、この事業所が力を入れて取り組んでいることは、高齢者のえんげ機能低下や誤えんを予防するために、訪問歯科診療による口腔ケアに重点をおいた取り組みを行っていることである。口腔体操を取り入れ、えんげ機能の維持強化に努め、食欲の増進、誤えん性肺炎の予防に取り組んでいる。また家族の協力を得ながら、昔ながらの文化的行事は積極的に取り入れたサービスに力を入れている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの基本方針と4つの目標「家庭的」「個別対応」「自立支援」「地域密着・地域との連携」を作り上げて掲示している。また会議の際、確認し周知している。	法人全体の基本理念のもと、グループホームとして利用者の安定した生活の継続を支えることを今年度の目標として掲げ、さらに4つの目標「家庭的」「個別対応」「自立支援」「地域密着・地域との連携」を作り上げている。実践に向けた具体的な取り組み方法としては、会議での再確認や朝夕の申し送り等で具体的な対応を心掛けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の清掃や運動会等に積極的に活動参加している。また幼稚園等との交流も行っている。	地域の方の尽力もあり、事業所として自治会に入会している。敬老の日には、地域からのお祝いの品も届けられている。また、年2回の清掃活動や校区の運動会等にも積極的に参加している。これまで続けられている幼稚園との交流も引き続き活発に行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと一緒に認知症ケアネットワークに協力し、地域の集まり等にも参加している。また地域のスーパーや美容院を利用している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域のお世話をされている方、地域包括支援センター職員、ご家族等を構成員として、2か月に1回会議を開き、ご意見や評価を受けている。	会議は2ヶ月に1回第3金曜日に行われている。メンバーは民生委員、自治会長、体協長、地域包括支援センターの職員、利用者の家族等で構成されている。意見や評価をサービスの中で実践していくことを目指している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターやグループホーム連絡協議会熊本市ブロック連絡会等に積極的に参加している。	市主催の集団指導やグループホーム連絡協議会等には積極的に参加し、現状報告や指導を受けている。また地域包括支援センターとは運営推進会議等を通じて、協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、問題意識を共有するために会議を通じて話し合いを行っている。また日頃から拘束をしない対応に努めている。	身体拘束に関するマニュアルを作成している。また、日頃から身体拘束や虐待およびその弊害について勉強会を開いており、全職員が拘束の無い対応に取り組んでいる。玄関の施錠は防犯上、夜間のみ行なっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で取り上げたり学習会をしたりしている。また現場でも職員同士互いに注意し合っている。		

事業所名:グループホーム 出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し、職員間で情報を共有している。必要な方には地域包括支援センター等の窓口を紹介している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分に説明し同意を得ている。特に納得しておいてもらいたいことは、十分時間をかけて説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご希望・ご意見が出やすい雰囲気作りに努めている。熊本市の介護相談支援員を介しての利用者の意見もケアに反映させるようにしている。また施設に第三者苦情受付窓口を準備し対応している。	意見の受付窓口は、管理者となっている。また、第三者苦情受付ポスターも施設内に掲示している。さらに市の介護相談支援員の訪問も受け入れており、利用者の率直な意見をサービスに反映できるように取り組んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回グループホーム会議を開いており、その際職員の率直な意見等を聞いたり、それ以外にも随時聞く機会を設け、改善すべき点を改善している。	毎月、月初めにグループホーム会議を開いており、その中で、職員の気付きやアイデア、また率直な意見等を聞く時間を設けている。改善すべき点や運営に活かせる点は、反映させるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シート・OJT計画書の作成により取り組んでいる。現場の勤務実態・努力・実績・悩み等を観察したり、日誌・各種報告書・直接の面接などで把握するように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修参加等により、研鑽に努めるように奨めている。その際、年度ごとにテーマを定めた研究を推進し年2回発表をしている。また外部研修にも参加し、他の職員にも情報を提供するために、会議のときに時間をとっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回のグループホーム連絡協議会熊本市ブロック連絡会に参加し、勉強会や情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面接しアセスメントを取りながら状況把握に努めている。またケアマネージャーや職員や家族と連携し情報を得ている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との面接時に立ち会って載いて情報を得ている。その他いつでも家族の相談に応じている。また入所前に自宅訪問を行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を希望される場合、本人・家族が何を求めておられるのか、本人に何が必要かをしっかりと把握してケアプランを練り、介護支援に生かすようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者との会話を大切にし、その人に合った楽しみや話題づくりを心がけている。また個人の能力を發揮してもらい、お互いに思い合う関係づくりに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報提供を密に行うことで、家族との信頼関係を築いている。また病院への通院や行事参加・家族会等の協力を得ている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、自宅訪問や墓参り等を行っている。	家族の協力を得ながら、自宅が気になる利用者の場合は見に行ったり、また墓参りや行きつけの美容室、更には教え子との面会など馴染みの人や場所との関係継続支援に取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	調理・洗濯物干しやたみ・散歩・レクリエーション等、日常の中で助け合う場面作りを心がけ、入所者同士が思い合える関係づくりに努めている。		

事業所名:グループホーム 出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて連絡をとったり面会したり、必要に応じて臨機応変な対応をしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の気持ちを尊重している。また、困難な場合も本人のペースや状態に注意し、意向の把握に努めている。熊本市の介護支援相談員の訪問を月1回受けている。	出来る限り利用者本人のサインや表情また行動の中から思いや意向を把握するように心掛けている。さらに市の介護支援相談員の訪問も受けており、より適格な把握になるように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネージャーから情報を集め、アセスメントに記入している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リハビリを中心に、個人の力を発揮できるような場面の提供に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画には、本人、家族の意見を取り入れ、職員間で話し合っており、主治医や看護師の意見も反映している。また、日頃から個人の変化に応じた計画の手直し等の話し合いを行っている。	本人・家族の意見を第一に、職員間で意見交換を行なった上で、本人主体の暮らしが出来るような介護計画になるように留意している。その際、主治医や看護師の意見も反映し、現状に即した介護計画になるように努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は十分に行っている。また情報は申し送りで共有し、それを生かしたケアを実践している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所は閑静な住宅地の中にあり、買い物・散歩等に適している。また事業所内にも多くの部屋や庭もあるので、これらを日常の活動に生かしている。		

事業所名: グループホーム 出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災・教育・地域活動に関して、専門の方をお呼びしてご指導・ご支援を頂くようにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院があり、何かあればすぐに診察をお願いしている。また家族の希望等を聞き、適切な医療を受けられるように支援している。別にかかりつけ医がある場合は、その医療機関と連携するようにしている。	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。その際の対応は家族をお願いしている。また、今年度からは協力医院も増えており、なにかあればすぐに診察をお願いできる体制を整えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所にも准看護師がいて、法人の看護師と連携を取りながら健康管理に当たっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度から入院施設がある病院とも協力医関係を結び、担当者と密に連絡を取り合い、関係づくりに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針を家族に十分説明し、理解を得ている。また重度化した場合の対応は、状況に応じて行う。	重度化に対応するための指針を作り上げており、最初に十分な説明を行ない、理解を得るようにしている。また事業所としては、看取りは行なっておらず、緊急の場合は救急搬送の対応を取るようにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修で、救急法を受けている。また緊急時は対応マニュアルに沿って対応している。AEDも備え、とっさの場合に対処するようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施し、指導を受けている。	消防訓練は、年2回実施している。うち1回は、夜間を想定したものとなっている。また消防署の指導を受けながら、より実践的なものになるよう取り組んでいる。	緊急の場合の近隣からの協力体制はとても重要になってくると思います。運営維持会議等で、ネットワーク作りの知恵を拝借してはどうでしょうか。また非常時の備品及び食糧の備蓄も検討してほしいと思います。

事業所名: グループホーム 出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライドを傷付けないよう言葉や態度に注意している。また本人の思いを否定しないようにしたり、個室にも無断で入らないように心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りを傷つけないように、特に言葉使いや態度には注意している。また職員本人が気付かず、第三者から見て不適切な言葉使いや態度があった場合は、会議等で話し合い、改善している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人に合わせて、衣・食・作業・ゲーム等で日々自己選択・決定ができるような場面を設定している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者一人ひとりのペースを尊重し、職員側の都合にならないように努めている。また、日常生活の中でそれぞれに選ぶ場面を提供し、自己決定できるような場面づくりに努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の着たい衣服、好みの衣服を着用してもらい、清潔感のあるその人らしいおしゃれが保持できるように努めている。また家族と相談しながら、美容院に出かけたり、出張美容サービスを利用したり支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りを相談し、買物も一緒に行ったりしている。また調理や後片付けもできることを見つけながら、一緒に行っている。皆さん、喜んで役割を果たしている。	食事は心地よいBGMのもとで行なわれていました。献立作りも利用者と相談しながら行なっているとの事でした。お元気な方は、野菜の皮むきや料理の盛り付け、配膳、下膳と喜んで能力を発揮しておられました。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を作り、一人ひとりの食事摂取をチェック表に記入し把握している。水分も、入浴後や外出後夜間帯と特に水分不足にならないように配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内清潔に努めている。専門ケアが必要な場合は、家族に相談し、訪問歯科診療を受けてもらっている。		

事業所名:グループホーム 出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常生活の中で、排泄を行えるように努力している。夜間は紙おむつ利用者も、日中は下着を利用してもらい、気持ちよさを体感してもらっている。	事業所内に歩行訓練用の手摺りが取り付けられており、足腰のリハビリを行ないながら、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、夜間は紙おむつを利用している方も日中は下着をつけ、気持ちよさを実感しながら自立への取り組みを行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜などの繊維の多いものを取り入れた食事やおやつに配慮している。また散歩や体操、家事仕事等の活動に努め、下剤に出来るだけ頼らないようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の生活習慣や希望に合わせて無理強いせず、ゆっくりとくつろいだ気持ちで入浴できるように努めている。	基本的な入浴回数としては、夏2日に1回、冬2～3日に1回の割合で支援している。必要な場合は、即対応できる体制を整えている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠支援のため、日中は家事を中心として生活リハビリに努めている。また、個人の睡眠パターンを把握し、それぞれに合った生活リズムの維持を意識的に行っている。居室や畳コーナー、ソファでの休憩・急速に配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が常時服薬情報に留意しており、医師の指示の下服薬を行い、症状の変化も確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を中心に園芸や生け花、習字等入所者一人ひとりの能力に応じた場面づくりに努めている。また季節の行事・慣わし等家族や地域の方の力を借りながら、楽しんでもらうよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物・散歩・ドライブ・幼稚園行事・地域行事の参加等、楽しみを見つけ支援している。	季節のいい時期の花見や幼稚園行事など、主なものは年間の計画を立て支援している。買い物や散歩、ドライブ等の日常的なものについては、利用者の意向を聞いて対応するようにしている。特に冬の寒い時期は好まれないようである。	利用者の家族状況にもよると思いますが、家族会等で協力をお願いし、外出できる機会を増やすような声掛けを行なってみたいと思いました。

事業所名: グループホーム 出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名が小遣いを持っており、能力に応じた金銭管理の支援体制をとっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、プライバシーの保護に配慮しながら支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂は開放感あふれる吹き抜けにし、床暖房も完備、天井には扇風機が回り、換気とソフトで自然な温度コントロールをしている。またテラスや小庭園・ベランダでくつろぐことができる。	玄関や廊下には、利用者の方々の作品が展示されていました。生花や書道の作品等でみごとな出来栄でした。また居間や食堂は、吹き抜けに設計されており、開放的な空間から自然の光が差し込んでいました。床暖房も完備されており、まったく寒さを感じませんでした。外部にも花壇が作られ、くつろぎのスペースを演出していました。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に応接セット、畳コーナーを設けている。玄関内側にも長椅子を置き、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、これまでの慣れ親しんだ家具や生活用品を持ち込み使用している。	本人は家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、居心地良く過ごせるような支援を行なっている。なかには仏壇をお持ちの方もおられました。その他、家族の写真がところ狭しと貼ってある方もおられました	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム専用に建てられた施設であるため、設備や工夫がなされている。		